

## 第24回国際人口学会大会

国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population) は、4年毎に大会 (General Population Conference) を開催する。その第24回大会が2001年8月19～24日にブラジルのバイア州サルヴァドールで開催された。最終的な参加者は1,300人を超えたとのことだが、事前に登録を済ませていた参加者のリスト (843人) を見ると、居住国で最も多いのは米国 (184人) で、開催国ブラジル (140人) を上回る参加登録があった。地理的な条件からか、南北アメリカからの参加登録者 (417人) で半数近くを占める。次いでヨーロッパからの参加登録が目立ち (223人)、国別ではフランス (66人)、イギリス (39人)、イタリア (23人) から多く参加している。やはり地理的な条件のためか、アジアからの参加登録は101人で、前回の北京大会の682人 (うち中国から555人) から大きく減少した。日本からの参加者も、前回24人に対し今回は6人である。アフリカからの参加登録は77人、オセアニアから24人だった。

この大会では、88の専門部会が行われた。これは前回の北京大会の66部会を大きく上回り、野心的なプログラム編成だったと言える。多すぎるのでここにタイトルを示すことは避けるが、プログラムはブラジル大会のサイト (<http://www.iussp.org/Brazil2001/>) に掲載されている。やはり目立つのは出生・家族計画や死亡・健康に関する部会である。もちろん分布・移動、結婚・家族、経済、環境、歴史等に関する部会もそれぞれ複数個あり、人口学教育や人口学のソフトウェアに関する部会も開かれるなど、内容は多彩であった。

小会場で複数の部会が同時進行する専門部会に加え、夕方には大会場で論争セッション (または科学政策セッション) が開かれた。それらのタイトルは以下の通りである。

- D1. Did Cairo miss the mark?
- D2. Are there limits to the human life span?
- SP1. Science Policy session: Population and sustainable development
- D3. Is below replacement fertility here to stay?
- D4. Should borders be open?

論争セッションではまず、タイトルにある問題提起に対し賛成派・反対派2名ずつのパネリストが講演を行い、次いで意見のある参加者が賛成・反対のマイクの前に並んで交互に主張を述べ合うという形式だった。上記のように人口学研究者の間で関心が高い論点について適切な問題提起がなされており、賛成派・反対派が拮抗した活発な議論が行われた。

会員総会では学会本部がリエージュ (ベルギー) からパリ (フランス) に移ったことが報告されたが、次回大会は4年後にそのフランスで開催される。 (鈴木 透記)

## 国際統計協会第53回大会

最古の国際学会の一つと言われる国際統計協会 (International Statistical Institute, ISI) 第53回大会が2001年8月22～29日に韓国ソウル特別市の会議・展示センター (COEX) で開催された。プログラム

委員長はオランダ・ユトレヒト大学の Richard GILL 教授で、現地組織委員長は韓国国家統計庁長官の Young-Dae YOON 博士で、実際の運営は同庁が中心となって行われた。2600人近い参加者のうち日本人参加者は200名近くに上り、1000名あまりを占める韓国人以外では第1位の米国人とほぼ並んで多かった。日本人口学会会員の参加者は ISI 役員指命委員長を務める三浦由己・駿河台大学教授のほか、石南國・城西大学教授と小島の3名であった。

200近くのセッションで1000近い報告が行われたが、統計学という分野の性格上、人口に関連するセッションは多かった。そのうち、人口を冠したものは "IPM09: Round Table Forum on Population Census" と "IPM81: The Meeting Organized by Population Association of Korea" の2つの招待論文セッションのほか、以下の人口統計に関する寄稿論文セッションだけであった。

CPM47: Population Statistics

"Determinants of Union Formation in Japan and France" Hiroshi KOJIMA (Japan) & Jean-Louis RALLU (France)

"Determinants of Entry into First Marriage in Korea" Hyung-Seog KIM & Nam-Soo JUNG (Korea)

"On the Aging Problem of the Chinese Population" Liu COMGRONG (China)

"Demographic Transition and Economic Growth in Mexico" Peon VELA (Mexico)

なお、第54回大会は2003年8月13～20日にドイツのベルリンで開催される予定である。

(小島 宏記)

## 環境保健統計国際会議

前述の国際統計協会第53回大会のサテライト・ミーティングの一つとして日本計量生物学会（会長兼国際計量生物学会日本支部長：吉村功・東京理科大学教授）主催で、2001年8月30日（木）～9月1日（土）の3日間にわたり福岡市の福岡ソフト・リサーチ・パークで「環境保健問題における統計的課題に関する国際会議（International Conference on Statistical Challenges in Environmental Health Problems, ISCEP）が開催された。組織委員長は九州大学大学院数理科学研究の柳川堯教授で、国際プログラム委員長は Walter W. PIEGORSCH・サウスキャロライナ大学教授で、いずれの委員会にも内外の著名な計量生物学者が名を連ねており、それらの多くが講演や報告を行った。

会議は午前2コマと午後2コマずつ初日の午前から最終日の午前まで開催され、最終日の午後も1コマと閉会式が行われた。1つのコマでは招待論文の場合は2講演、寄稿論文の場合は4報告が行われ、前者16と後者12の計28報告が行われた。そのうち、社会科学系の報告で人口と関連するものは拙稿を含む以下の2つの寄稿論文報告であった。

(c7) Mika MATSUMURA (University of Tsukuba, Japan):

*Study on the improvement of "IDD Eradication Program" of Nepal: The consideration from the point of view of production and distribution of iodized salt*

(c9) Hiroshi KOJIMA (National Institute of Population and Social Security Research):

*Environmental determinants of mother and child health in Asian countries*

日本統計学会大会でもこの分野に関連するセッションが若干あるが、同時開催の社会科学系セッショ